

港区教育ビジョン（素案）に寄せられた意見について

報告内容

港区教育ビジョン（令和7年度～令和16年度）（素案）に寄せられた意見について報告します。

1 意見募集（パブリックコメント）

（1）募集期間 令和6年11月1日（金）から12月5日（木）まで

（2）人数、意見の件数

	人数	意見の件数
郵便	0人	0件
インターネット	24人	46件
FAX	0人	0件
持参	1人	1件
合計	25人	47件

※件数は、複数の内容を含んだ区民意見を分割した後の件数です。

2 素案説明会での参加者意見

（1）開催概要 令和6年11月10日（日）午前10時から 港区役所
参集またはオンラインで参加

（2）参加者数、意見の件数

人数	意見の件数
11人 (参集：3人、オンライン参加8人)	5件

※件数は、複数の内容を含んだ区民意見を分割した後の件数です。

（3）素案説明会アーカイブ動画の視聴回数

公開期間	視聴回数
令和6年11月19日（火）から 12月5日（木）まで	361回

3 関係する団体への説明会

（1）開催概要 令和6年11月7日（木）から11月29日（金）まで

（2）説明を行った団体名、参加者数、及び資料送付により周知をした人数

（3）説明会における意見は1件

日にち	団体名	参加者数	資料送付による周知
7日	港区スポーツ運営協議会	7人	—
11日	港区私立保育園長会	50人	—
12日	港区立保育園長会	30人	—
14日	港区立小学校PTA連合会 ※説明資料をデータ提出し、各 会員へ周知依頼	19人	—
15日	港区保護司会	15人	61人
15日	港区青少年委員会	22人	—
18日	港区民生委員・児童委員協議会 ※説明資料をデータ提出し、各 会員へ周知依頼	14人	137人
20日	港区スポーツ推進委員協議会	11人	—
21日	港区立中学校PTA連合会	8人	—
22日	港区立幼稚園PTA連合会	(開催中止)	12人
28日	港区私立幼稚園PTA連合会	42人	—
29日	港区心身障害児・者団体連合会	13人	—
合計		231人	210人

港区教育ビジョン（素案）に寄せられた区民意見

No	区民意見	区分
1	港区から日本や世界に貢献する「目指す人間像」を育成するための、計画的かつ責任あるビジョンだと感じた。歴史を学ぶことは、歴史そのものを覚えることではなく、現在、未来をより良くするために過去の経験から学ぶことに意味がある。自虐史観に陥ることなく、多角的な視点から歴史を捉えることが重要。歴史教育を通して、多様な価値観に触れ、比較的思考力や問題解決能力を養うことで、グローバルな視野を持ち、社会貢献意欲の高い人材へと成長していくことができる。港区が掲げるビジョンが実現し、多くの才能あふれる人材が輩出されることを心から期待している。	インターネット
2	国際化教育を進めるといのは、時代にあったよい取組。修学旅行を海外にするのはいいが、京都奈良に行かなくなるのはどうなのか。希望者だけでも、有料で連れて行く機会を設けてはどうか。	インターネット
3	区立中学校の給食が少ない。部活動をしている生徒に、捕食も許されていない。お腹がすけば学習も集中できず、ケンカなどトラブルにもつながる可能性があるので改善してほしい。	インターネット
4	区立中学校において、熱中症や感染症に対する意識・ルールが薄い。部活動の遠征などでも、昼食の持参や道中での飲料水等の購入も許されていない。少額のお金を持たせ、スポーツ飲料水の購入くらいは許可できないか。また熱中症警戒アラートが出たら部活動を中止してほしい。	インターネット
5	高校への併願優遇や、推薦と欠席日数の兼ねあいに疑問を持っている。コロナ以降、感染症についての認知は拡大したにもかかわらず、このあたりは変わっておらず、改善を求める。	インターネット
6	子どもは楽しかった授業をととてもよく覚えている。漢字の書き順ひとつをとっても、先生方の創意工夫で楽しく覚えた漢字はしっかり覚えている。ゲームをしている感覚で日本各地の地名や名所を覚えられるソフトがあることを知り、子ども達が楽しみながら社会を学べるのは良いと思うので導入を検討してほしい。	インターネット
7	特別支援教育の充実を期待する。特別支援学級に入れないけど特性のあるグレーゾーンの子どもたちの支援がより必要だと感じている。家庭と学校と専門機関の橋渡しになるような相談窓口や、特別支援のスタッフ、サポーターの増員をお願いしたい。	インターネット
8	「誰一人取り残されることなく」と掲げているが、小・中学生の意見の聞き取りでは不登校の生徒には聞き取りがなかったと記憶しており、既に取り残されている。学校での教育のみの掲載ではなく、不登校の子どもたちへのケア、情報・知識のアップデートのしくみなどを作ってほしい。中には退職や休職をする親もいて、子どもの将来を心配し真剣に取り組んでいる。様々な人生設計のための教育ビジョンを考えてほしい。	インターネット
9	スローガンの「全ての人を心豊かにする世界一の教育都市を目指して」の「世界一」の部分に違和感を感じる。学力や体力と違い、心を豊かにすることは比べるべきものではなく、比べる基準、方法もない。区長の世界一を目指すお気持はよく分かるが、「心豊かにする」ことは競うことではないと思うので再考いただきたい。	インターネット
10	学童クラブの充実についてももっと触れてほしい。学童クラブは3年生では入れない場所が多発しており、子どもの放課後の安全も脅かされている。子どもの放課後の居場所の拡大だけでなく、学童クラブにおける学習支援など、量的・質的な向上のための施策を盛り込んでほしい。	インターネット
11	休業に入る教員の代替教員が数ヶ月以上着任しないなど、教員不足が加速している。港区独自で教員を採用し、支援が必要なクラスや子どもに独自に教師が派遣できる仕組みを構築するなど、切れ目ない学びを支援できるようにしてほしい。	インターネット
12	校長や教員の異動により、校内の雰囲気や生活習慣が変わってしまい残念な思いをした。校長や教員を見て学校選びができるのが学校選択希望制の良さの1つ。学校運営や校風に影響力のある校長については在籍年数を長く設けてほしい。	インターネット

No	区民意見	区分
13	学校内で解決できない問題を保護者が相談する場がない。保護者が校長や教員の評価をできる場を作してほしい。	インターネット
14	港区は若年の留学希望や父兄や子ども自身の国籍が日本国籍以外の子どもも多く、海外の現地校へ通うことも考えられる。しかし現状では欠席扱いもしくは退学の2択しかなく、欠席となれば受験時などに影響する可能性が、退学となれば学区外の学校に通っていた場合は帰国後転校しなくてはいけない可能性がある。ほかの学校へ通っていたら特別措置として欠席扱いしないなど、新しい出席のかたちを作れば子どもの未来が広がるのでは。	インターネット
15	不登校支援の情報が乏しく、支援体制も担任教員の判断に任せていると感じる。保護者が学校とやりとりする精神的負担も大きい。学校単位や教育委員会、専門機関と連携した独自のフォロー体制が必要と感じる。開校予定の学びの多様化学校には期待をしており、あらゆる子どもへの教育機会の提供や誰一人取り残さない教育の推進を進めてほしい。	インターネット
16	以前より施設は充実したが、子どもたちが外で遊べる場所が公園など限られた場所になっていると感じる。公園も子どもが多く、周囲に気を使う子どもにとっては思うように遊べないことも多いため、広場やフリースペースで集まってゲームをしたり、屋内で遊ぶ傾向が強くなっているように感じる。きっかけがないと、外で遊ぶ機会が増えにくい時代になっている。	インターネット
17	屋内活動において、場所の提供にとどまらず活動の機会や活動日の選択肢を増やしてほしい。例えば愛知県で実施されている「ラーケーションの日」のように、年間数日、平日に学校以外の活動に充てることができる、平日など混雑の少ないタイミングで様々な体験が可能になる。「ラーケーションの日」や選択的リモート授業参加の仕組みがあれば、平日でも親はリモートワーク、子どもはリモート授業といった柔軟な形で、効率的な時間の使い方ができるようになると思う。子どものラーケーションやリモート授業の選択肢を増やしていただきたい。	インターネット
18	子どものリモート授業への参加を促進するため、家庭のITリテラシーも必要なので、区民を対象としたICTリテラシー教育を検討してほしい。たとえば子どもの小学校入学時参加できるICTリテラシーセミナーを実施するなど、実践的なスキルを学ぶ機会を増やせないか。	インターネット
19	港区内ではスポーツとしての自転車利用が難しいと感じる。都心から荒川や多摩川への長距離サイクリングをした場合、レインボーブリッジは自転車走行禁止であるため、簡単に行ける状況ではない。レインボーブリッジの遊歩道を特定の時間帯に自転車通行可能とすることを検討いただきたい。	インターネット
20	「グローバル社会で活躍する力の育成」について、ツールである英語力に安易に結び付けてしまわないよう、母語で自軸の考えを持てる力の育成が優先であることを明示していただきたい。	インターネット
21	区立学校におけるでは過度な部活動が「心豊かに生きる人」の育成を阻害しているため、活動の見直しを促していただきたい。 ①特定の部活動に所属する子どもに対し、学校が強制的に区事業等に参加させなかった。 ②活動を理由に、当該部活動に所属する子どもを授業から早退させているが、出席扱いとしている。 ③当該部活動の担当教員が異動もなく固定化されており組織の硬直化となっている。 ④当該部活動に所属する子どもが自分たちは優秀であると主張し、所属していない子どもとの間での分裂を生んでいる。 ⑤当該部活動における勝利主義の植え付けにより、子どもや保護者間での内面的な争いに発展している。	インターネット
22	現場の職員に子どもを育てる為の資質や能力があることが大切。給与アップして良い人材を確保すると共に、区立学校にヘルプ要員を派遣するべき。区立中学校の海外修学旅行にかける費用を人材に使うべき。	インターネット
23	ビジョンに示された方向性については異論がなく、多くの人にとって納得感のあるものと感じる。学校教育の実現にあたっていちばん必要なのは、先生が一人ひとりの子どもと向き合う余裕を持ち、授業準備に十分な時間を割けること。先生が多忙化し、児童生徒と丁寧に向き合う余裕を失っていると感じる。先生を補助するスタッフや、子どもたちが抱える”しんどさ”に寄り添える専門家をより手厚く配置するなど、区独自で取り組めないか。学校生活を支える”人”の充実をより図っていただきたい。	インターネット
24	全体的に素晴らしい内容で、特に当事者である子ども達の意見を大切にしている所が良いと思った。子どもはどんどん大きくなるので、スピード感を持って施策を実行していく必要がある。意見を出してくれた子ども達が「自分たちの意見で港区が動いてくれた」と実感する事で、さらに様々な事へ能動的に動けるようになってほしいと思った。 アンケートの結果を受けて実現した事を子ども達へきちんと伝えていただいてほしい。	インターネット

No	区民意見	区分
25	小・中学生の放課後の居場所の拡充を早期に実現してほしい。	インターネット
26	三鷹市が行う探究学習の取組のように、子ども達が学ぶ事が好きになるような授業内容を検討してほしい。	インターネット
27	YouTuber部、デジタルアート部、ダンス部など、子ども達の意向を反映した新たな部活動を充実させてほしい。	インターネット
28	千代田区立中学校の事例などを参考にした、区立中学の魅力度向上に取り組んでほしい。	インターネット
29	子ども達のために頑張っていただき感謝している。日本の小学校教育はびっちりし過ぎていて息苦しさを少し感じる。軽井沢町にある私立小・中学校のように、自由で多様性を受け入れられる、小学生が子どもらしくのびのびとできる環境を作っていただきたい。	インターネット
30	様々な理由により学校に通えない子たちにも、学べる環境、経験できる環境を与えてほしい。	インターネット
31	区立中学校は、昭和的な価値観に基づいた画一的な指導や、入学式、卒業式、運動会といったイベントでも形式を重視する姿勢が目立ち、生徒の自主性や主体性を育む教育が不足していると感じる。教職員の意識改革も迫いついていない。生徒一人ひとりの個性や才能を伸ばし、主体的に学び、行動できる力を育む教育、塾に通わなくても進学ができる体制作り、教職員が誇りを持って働けるような環境や待遇改善を検討していただきたい。	インターネット
32	区立中学校においては、目的外や長時間の利用の問題からタブレットの持ち帰りが禁じられているが、家庭でデジタル環境がないとこなせない課題出たことがあった。デジタル社会で生きて抜いていくためにも、タブレットの持ち帰り禁じるのではなく、時間制限やアプリ制限等の措置を講じ、デジタル教育が充実するための支援してほしい。	インターネット
33	区立中学校では担当教員が休職した際の代替教員が見つからず、教育課程に支障が出ていることがあった。区全体で、教員不足問題に取り組み学びを止めない臨機応変な対応をお願いしたい。	インターネット
34	区立中学校における評価基準を加点方式にしてほしい。発達障害等があり提出物が出せない、あがり症で発表ができない子どもはテストで点数を取っても評価が低く、自信をなくしてしまう。全てをオールマイティに出来る子どもに高評価がつく教育から、頑張ってる点、長けてる点を評価してもらえる制度への変更の検討をしてほしい。	インターネット
35	国際理解教育の質の向上をしてほしい。例えば留学経験や英語力のある教員の配属、ALTの有効活用、国際学級が設置されている小学校で実現している英語の習熟度別クラスの設置とフォニックス学習の推進の他校への普及、JICA海外協力隊現職参加の推進と帰国教員の活用、海外の日本人学校や補習校との教員や生徒の交流など。	インターネット
36	特別支援学級の充実や特別支援教育体制の整備を進めてほしい。例えば、通級申請をしてから認められるまでの期間の短縮、知的に遅れのない情緒級の設置、特別支援教育の資格・専門知識を有する教員の配属、言語聴覚士の配属、通常級の教員向けの発達障害に関する研修の充実など。	インターネット
37	日本語学級や日本語指導を充実してほしい。例えば、原則2年となっているルールを生徒が必要とする期間に変更したり、日本語学級の先生に加えて、言語聴覚士を配属するなど。	インターネット
38	国際学級を拡充してほしい。外国人子女だけでなく、二重国籍者や帰国子女で、日本語を母語としない者に対象を広げ、日本語学級や日本語指導との併用を認める)	インターネット
39	不登校対策を推進推進してほしい。例えば、不登校特例校の拡充、夜間中学校の拡充、不登校児を受け入れる健康学園の設置など。	インターネット
40	教育の担い手拡充の支援として、すべての学級に副担任を配置してほしい。	インターネット

No	区民意見	区分
41	海外では、授業への集中、対面での交わりの重要性、健康、心理的・社会的に悪影響、依存性、中毒性などの理由からモバイルデバイスの学校での使用禁止が広がっている。また、国際学力調査では、過度なICT使用と生徒の成績の間に負の関連があり、教育テクノロジーは不適切または過度である場合には有害な影響を及ぼし得るなどの指摘もされている。こうした状況下で、DXの教育効果の測定やリスクをチェックする仕組みが必要であり、場合によっては、紙と鉛筆のアナログな教育に回帰する選択肢を持ってもいいと思う。	インターネット
42	大きな方針として異存はないが、いじめ対策について根治療法的なアプローチも必要と考える。発生したいじめに対しての対症的な施策に加え、いじめの発生のプロセスを踏まえた根拠的対策をする必要がある。専門家を招き教育関係者や保護者が学び、子どもの心に起こった問題をいじめという形に向かわせず、別の解決法に導ければ、いじめの発生を防げると思うので、検討してほしい。	インターネット
43	小学校6年間を通して、年間に百冊以上本を読める児童は成熟度が高く、情緒的にも落ち着いている傾向があるが、今の子どもは忙しく、読書を「楽しむ」余裕が無いように見受けられる。また、絵本を早く卒業させようとする保護者が多い傾向もあり、児童の読書支援と同時に保護者への理解を求めることも大事だと思う。	インターネット
44	英語の習得や国際理解教育だけでなく、日本語教育を大切にし、日本人として外国とわたりあえる人材を育成することが必要。また、世界からは日本人としての感性や意見、目線を持った人材が求められており、幼少期から日本の伝統文化に触れる機会を意識的に増やすべき。	インターネット
45	地域のコミュニティとの繋がりを強化する手立てとして、自身の属する町会活動への参加を促してはどうか。身近なコミュニティに貢献する事で、港区に対する愛着も育まれるのではないかな。	インターネット
46	今の日本の学校は、日本の伝統文化への関わりが少ないと感じる。小学校の時からお琴や歌舞伎、日本舞踊などの日本の伝統文化に関わる機会があれば興味を持つきっかけとなる。日本の伝統芸能は日常から薄れつつあり、本業にしている方も大変な思いをしている。学校教育の場で日本文化を学び体験する機会を設けてほしい。	インターネット
47	特別支援学級に在籍する子どもが一定数いるが、特別支援教育について教育大綱、教育ビジョンの枠組みに入るのか、難しい場合は別途策定していく予定はあるか。	説明会
48	現行の教育ビジョンの期間中における取組の達成度を表記してほしい。達成した項目の割合や未達成の理由などについて分析してほしい。	持参
49	基本的方向性2について「グローバル社会で活躍する力の育成」の中に「地域コミュニティとつながり」「国際理解」「日本の文化理解」など小見出しがバラバラな感じで違和感がある。	関係する団体の会合における説明
50	国際理解教育について語学力の向上等に取り組むと思うが、一方で自国に対する理解も重要になると感じている。自国の文化をしっかりと学ぶ、体験する機会も充実していけるとよい。	説明会
51	海外修学旅行を行っているが、これまでの京都・奈良修学旅行を通じた自国理解の機会の代替は設けられるか。	説明会
52	平和教育を充実できるとよいと感じた。世界で唯一の被爆国であることや港区においても空襲の被害があったことを、子どもたちに伝えていけるとよい。	説明会
53	子どもの意見聴取について今後、それらの結果がどのようにフィードバックされていく予定か。フィードバックがあると子どもたちもやる気が出て嬉しいのではないかと感じた。子どもの意見を施策にどう活かしていくか教えてほしい。	説明会